

中島海岸及び津谷川に関する要望事項の検討WG（第3回）議事概要

平成 26 年 7 月 16 日（水）

【開催主旨】

- ・ 有識者による第2回検討会が7月3日に開催され、整備案に対する意見をいただいている。
- ・ 前回の検討WGでの議論を振り返りながら、検討WGや検討会でいただいた意見をもとに作成した整備方針案について説明したい。

【資料1（第2回の振り返り）に対する意見】

ワーキングの議事概要（未定稿）を確認いただき、ホームページに情報を掲載する方法で情報公開する方針。 →会場から異議なし。

【資料2（検討会の結果と今後の対応案）に対する意見】

1. 第2回検討会の主な意見と対応

特に意見なし。

2. 高水敷整備方針（案）

意見：高水敷と低水路の段差部分は階段状にできないか。（斜めだと滑るため）

対応：かごマットによる施工を基本とするが、植生に配慮して隙間を土砂で埋める場所、利用に配慮して階段状にする場所などを作るなど、現地で対応したい。

3. 外尾川河口部整備方針（案）

意見1：右岸の用地買収の現状はどうか。

対応1：整備方針案が固まった段階で、地元にも再説明し、ご理解を得ていきたい。

意見2：堤防上および堤防下の道路は、車が転回するスペースを設けて欲しい。

対応2：転回する場所を設置する。

4. 海水浴施設整備方針（案）

意見1：万が一にも車が海側に転落しないように、駐車場の高さは防潮堤よりやや低くするべき。

対応1：堤防よりやや低い、T.P. 14m前後で計画検討を進める。

意見2：震災慰霊碑や復興の鐘など、一般の方や若者を集める工夫が必要だろう。

対応2：今後の施設整備の中で、意見として取り入れたい。

5. 保安林・排水の整備方針（案）

意見：マツのみの植生だと松食い虫にやられる可能性があるため、クロマツの後ろに常緑樹も併せて植栽した方が良い。

対応：保安林に用いるマツは、マツクイムシに耐性のある品種の苗を植える。常緑樹と混栽も可能なため、現場で工夫しながら進める。

6. 堤防法線の微修正について

意見1：中島海岸の防潮堤をセットバックすると塩害が増す懸念がある。

対応1：中島海岸防潮堤は現状計画を基本方針とする。

意見 2：津谷川右岸の防潮堤を JR までセットバックすると、津谷川の河口閉塞が進み、サケの遡上に影響するかもしれないので、配慮が必要。

対応 2：津谷川右岸の防潮堤は現状の位置とし、従前の湿地帯へ戻すことを基本とするが、堤防の法線は景観面から工夫する余地がある。

【資料 3 今後のスケジュールについての意見】

特に意見なし

【その他】

意見 1：地元以外の人から様々なことを言われているが、「地域」を中心に考えて欲しい。震災後の地域での 4 年間の経緯を踏まえて、地元の住民の意見を聞いて進めて欲しい。

以上

第3回検討会及び第4回検討WG合同意見交換会の振り返り
(中島海岸及び津谷川に関する検討会及び検討WG意見交換会 議事概要)

【平吹委員】(欠席につきペーパー配付)

- ・ 仮設道路の設置に当たっては、希少種及びその生息生育立地に関して、簡易な調査を実施し、その結果を可能な限り反映させて保全対策を策定してほしい。
→ 環境アドバイザー調査で対応したい。
- ・ 移植は最終手段なので、保存を第一にほしい。
→ 出来るだけ移植しないよう工夫したい。
- ・ 湿地の整備については斜面傾斜を多様にする。重機で固くしめない。既存の表土を取り置きしてまき散らすといった処理を行うと良い。
→ 設計については配慮済み。施工時に取り入れたい。
- ・ 保安林の必要性はあるのか。
→ 地元意見であり、尊重したい。
- ・ 海岸堤防位置についてはセットバックできないか。
→ 前回は回答しているが原案どおりとしたい。

【鈴木委員】

- ・ 希少種を取り上げるということも重要だが、なるべく生物多様性に配慮するという点を観点に入れてほしい。
→ 方針に「生物多様性に配慮」という表現を付け加える。
- ・ 環境省が重要自然マップというものを発表しており、本吉海岸も含まれている。対策の参考としてほしい。
→ 参考にする。

【平野委員】

- ・ 高水敷整備について、船を付けるところは階段、そうじゃないところは自然環境を守る取り組みにしたほうが整備方針としては的確になる。
→ 仮設構造物として設置するため構造は変わらないが、施工時に配慮したい。
- ・ 中島海岸と津谷川右岸の連続性を担保した参考資料のように整備すると海水浴

場の価値がさらに高まる。

→ 保安林担当部局と調整し検討していく。

- ・ 塩の飛沫の影響については不明な点が多い。

【WG委員】

- ・ 台風時には東風が卓越するため飛沫が山側にかかってくる。堤防を背後下げた場合、飛沫の影響が背後に及ぶため、堤防は下げる必要はない。

【平野委員】

- ・ 台地と防潮堤間の窪地を埋めて、その上で保安林をつけていただけると、より飛沫の影響を受けにくいと思う。方針の中に入れていただきたい。

→ 背後の山となじむような盛土をして、松を植えるなど検討していきたい。

【平野委員】

- ・ 市の事業と保安林の事業と堤防の事業、三者一体となってきた地形のデザインをするという視点で詳細を詰めてほしい。

→ 詳細設計時に配慮する。

【WG委員】

- ・ 震災前は海岸線沿いにびっしり松林があった。保安林があれば塩害とかを避けられるので、ぜひ前の状況も調べたうえ検討してほしい。

→ 保安林の担当部署と調整したい。

【鈴木委員】

- ・ 津谷川右岸の内側に干潟をつくるということも必要だが、堤防前面に砂がつくようなことがあれば、アサリとかに対して良好な環境が形成されるのではないかな。

→ 山の影響で波が直接当たらないため、砂が付く可能性はある。

【WG委員】

- ・ 砂浜が出来て河口閉塞するとサケの遡上に影響が大きい。

→ 左岸に設置する突堤で河口閉塞対策を実施する。なお、専門家の意見も取り入れたい。

【今村座長】

- ・ 基本的には、今回の整備方針案をもとに整備し、今後モニタリングを実施しながら状況変化に対応する。
- ・ また、生物多様性や自然地形を考えながら詳細設計をとりまとめていただきたい。